

第35回 ベルリン国際映画祭 国際評論家連盟賞受賞
第26回 ブルーリボン賞 最優秀作品賞
第12回 日本映画ペンクラブ賞 日本映画第1位
第38回 毎日映画コンクール 日本映画優秀作品賞
1985年 ロンドン国際映画祭 招待作品 作品賞
1985年 シドニー国際映画祭 招待作品 作品賞
1985年 モントリオール映画祭 招待作品 批評家協会賞

戦後75年の特別上映

敗戦の虚脱と混乱、

それに匹敵する未曾有の危機に直面した2020年

日本の現在に問いかけてくる、

私たちは歴史から何を学んだのかを

監督 小林正樹 音楽 武満徹 ナレーター 佐藤慶

東京裁判

4K デジタルリマスター版

総プロデューサー：足澤雄吉、須藤 博 エグゼクティブプロデューサー：杉山捷三(講談社)
プロデューサー：荒木正也(博報堂)、安武 龍
原案：榎垣 俊 脚本：小林正樹、小笠原 清(CINEA-1)
編集：浦岡敬一(CINEA-1) 編集助手：津本悦子、吉岡 聡、佐藤康雄
録音：西崎英雄(CINEA-1) 録音助手：浦田和治 音響効果：本間 明 効果助手：安藤邦男
資料撮影：奥村祐治(CINEA-1) 撮影助手：北村徳男、瓜生敏彦 ノグ編集：南とめ
タイトル美術：日映美術 現像：東洋現像所 録音：アオイスタジオ 協力：博報堂
史実考査：一橋大学教授 棚谷千博(現代史)、神戸大学教授 安藤仁介(国際法) 翻訳監修：山崎剛太郎
監督補佐：小笠原 清 助監督：戸井田克彦 製作進行：光森忠男
ナレーター：佐藤 慶 音楽：武満 徹 指揮：田中信昭 演奏：東京コンサーツ
監督：小林正樹

デジタルリマスター監修：小笠原 清、杉山捷三
企画・製作・提供：講談社 配給：太秦 協力：芸楽会
©講談社 2018 1983 | 日本 | モノクロ | DCP | 5.0ch | 277分 |

INTERNATIONAL
MILITARY
TRIBUNAL
FOR THE
FAR EAST

www.tokyosaiban2019.com

『人間の条件』『切腹』の巨匠 小林正樹監督が 自らの戦争体験をもとに鎮魂の祈りを込めて綴った4時間37分 4Kデジタルリマスター版で昨年に続き、ふたたび上映

昭和から平成そして令和 新たな時代の幕開けに、現代の日本と世界が浮かびあがる
1945年8月に降伏した日本の戦後の運命を決定づけた極東国際軍事裁判の全貌を描く

アメリカ国防総省が撮影していた50万フィートに及ぶ膨大な裁判記録のフィルムをもとに、『壁あつき部屋』(56)や『人間の条件』シリーズ(59～61)などで戦争の非を訴えた、反骨の名匠・小林正樹監督が5年の歳月をかけて編集、制作した。客観的視点と多角的分析を施しながら「時代の証言者」としての「映画」を完成させたのである。83年に公開され、単に裁判の記録といった域を越え、日本の軍国主義の歩みと激動の世界情勢を照らし合わせながら、戦後38年当時の日本人に人類がもたらす最大の愚行「戦争」の本質を巧みに訴え得た本作は、第35回ベルリン国際映画祭国際批評家連盟賞をはじめ国の内外で絶賛された。

巨匠、小林正樹が遺したかった戦後日本への重い問いかけ 8月15日 昭和天皇の玉音放送詔書全文を完全字幕化

初公開から36年、故小林正樹監督に代わり、脚本・監督補の小笠原清とエグゼクティブプロデューサー杉山捷三の全面協力のもとで完成した4Kフィルムスキャン&2K修復デジタルリマスター版。音響もブラッシュアップされ、特に昭和天皇の玉音放送のシーンでは詔書全文の完全字幕化も実現。鮮明な画像と音響がもたらすリアルな臨場感とともに甦った本作は、再び「戦争と平和」なる言葉の重みとともに、昭和から平成そして令和へと時代が移り変わっても戦争がもたらした負の遺産を改めて観る者に問いかける。

いま歴史の瞬間に立ち会う 誰もが法廷に立ち会っているかのような生々しい臨場感と緊迫感

1945年日本はポツダム宣言を受諾し、8月15日に全面降伏の旨を国民に伝えた。戦後の日本を統治する連合国軍最高司令官マッカーサー元帥は、戦争犯罪人の裁判を早急に開始するよう望み、1946年1月22日に極東国際軍事裁判所条例を發布した。通称「東京裁判」である。

満州事変に始まり、日中戦争の本格化や太平洋戦争に及ぶ17年8カ月の間、日本を支配した指導者の中から、太平洋戦争開戦時の首相・東条英機ら28名が訴追された。一方、国の内外から問われ、重要な争点となった天皇の戦争責任については、世界が東西両陣営に分かれつつあるなか米国政府の強い意志により回避の方向へと導かれていく。同年5月3日より東京裁判は開廷。まずは「平和に対する罪」など55項目に及ぶ罪状が読み上げられるが、被告は全員無罪を主張した。検察側は日本軍の非道の数々を告発。弁護側は「戦争は国家の行為であり、個人責任は問えない」と異議申し立てするが、「個人を罰しなければ、国際犯罪を実効的に阻止できない」と、裁判所はこれを却下した。1948年11月12日、病死した被告などをのぞく25名のうち東条ら7名に絞首刑、他18名は終身禁刑もしくは有期刑が宣告が下された。

刮目すべき記録

「今後の世界平和のために」という美名のもと日本人たちを裁いた、その国々はそれまで何をして大国になり得たのか。その後少しでも世界を平和に導くことが出来たのか。欺瞞に満ちた裁判に憤りながら、では日本が歩むべき道筋とは、どんな形だったのだろう、と深く考えさせる記録。

鎖国を解き、国際社会に勇んで出た日本。一等国にまで登りつめ、そして崩壊する。その崩壊から新しい出発へ、東京裁判は節目にあたる「史実」である。この史実を理解することは、次世代が歴史に生きるということだ。

監督：小林正樹
音楽：武満徹
ナレーター：佐藤慶
企画・製作：講談社 配給：太秦
(C) 講談社 2018
1983 | 日本 | モノクロ | DCP | 5.0ch | 277分 |
公式HP：www.tokyosaiban2019.com
Twitter：@tokyosaiban2019

ちばてつや 漫画家

保阪正康 現代史研究家
ノンフィクション作家

8月29日(土)から東京都写真美術館ホールにてムーブオーバー決定!

期間：8月29日(土)～9月11日(金) [休館日：8月31日(月)、9月7日(月)] 13:00～ 1日1回上映 [途中休憩15分 前半：135分、後半：142分]

一般2,500円 / シニア1,900円 / 学生1,700円 / 高校生1,200円 / 障がい者手帳をお持ちの方1,100円 / 中学生以下1,000円

東京都写真美術館ホール TEL:03-3280-0099(代表) www.topmuseum.jp

JR恵比寿駅東口改札より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分 恵比寿ガーデンプレイス内

至 渋谷 東口 動く通路
JR恵比寿駅 恵比寿ガーデンプレイス
日比谷線恵比寿駅 1番出口 TOP MUSEUM